

# 次世代人材育成事業における「S」評価獲得

## および次年度の受講生募集について

### <概要>

琉球大学は、JST（国立研究開発法人科学技術振興機構）からの委託事業として、次代を担う才能豊かな小中学生を継続的、体系的に育成する「ジュニアドクター育成塾」事業に採択され、2017年度から2024年度7月まで実施しました（第1期：2017～2021年度、第2期：2022～2024年7月）※。

本事業の第2期の2年目である2024年度にJSTからの中間評価を受け、「総合評価S」という、全国の実施機関の中でもトップクラスの評価を受けました。

本評価においては、基礎知識から最先端科学技術まで幅広く学べる充実した科学教育プログラムの構築のみにとどまらず、本学が併せて実施する高校生を対象とした科学教育事業である「琉大カガク院」事業（JSTからの委託）や未就学児から高校生を対象に科学的体験や理系進路選択関連情報の提供等を行う「琉大サイエンスソウゾウ部」事業（大学資金等で運用）との連携による長期的な人材育成の体制の構築や、このような体系的な人材育成事業実施を可能とする学内体制の構築のほか、沖縄県教育委員会をはじめとした地元企業等も参画する人材育成をテーマとした地域コンソーシアムの発展等、本学が実施する次世代人材育成事業全体が高く評価されました。

※2025年3月現在、本事業は「琉大SEARCHプログラム（JST事業名：次世代科学技術チャレンジプログラム（STELLAプログラム））の「小中高型」に移行し、引き続き、理数分野に高い意欲・能力を示す小中学生、高校生の活動を支援しています（第1期：2024年8月～現在）。本事業の移行につきましては、令和6年度6月期の学長記者懇談会で報告しております（懇談事項：「琉球大学のSTELLA事業採択および「小中高一体型」科学技術人材育成プログラムの今後の展開について」）。

### <詳細>

#### （1）中間評価結果

評価日時：令和7年2月21日

評価者：グローバルサイエンスキャンパス推進委員会（JST）

判定結果：「S」（優れた取組状況であり、現行の努力を継続することによって更なる発展が期待される）

#### （2）「ジュニアドクター育成塾」事業について

将来、科学技術イノベーションを牽引する傑出した人材を育成することを目的として、地域で卓越した意欲・能力を有する小中学生等を募集・選抜し、高度で体系的なプログラムの開発・実施等を支援するJSTの委託事業です。

本学を含めた全国の16の大学等の研究・教育機関が各機関独自の強みや特徴を活かした取り組みを実施しています。

#### （3）琉大ハカセ塾（ジュニアドクター育成塾事業）

JSTからの委託を受けて実施する「ジュニアドクター育成塾」事業の本学でのプログラム名です。第1段階プログラムでは、大学レベルの講義やアクティブ・ラーニング形式授業、様々な分野の研究者による先端研究・技術に関する講演や、沖縄の特色ある研究内容

の紹介、ものづくり・工作・施設見学等を含むプログラムによって、将来、科学者や研究者として活動するために必要となる基盤的な知識・技能を習得します（図1）。第2段階プログラムでは、受講生は大学の研究室等に配属され、研究設備などを活用しながら、個々の探究テーマに取り組みその成果をまとめ、県内外の学会等での発表等に挑戦します（図1）。

## 琉大ハカセ塾の教育プログラム



図1：琉大ハカセ塾の教育プログラムの概要

また、本学では琉大ハカセ塾事業単独でプログラムを完結するのではなく、同じく本学がJSTからの委託事業として実施する「琉大カガク院」事業（JST事業名：グローバルサイエンスキャンパス、実施期間：2018～2024年度）や「琉大サイエンスソウゾウ部」（「琉球リケジョ」事業（JST事業名：女子中高生の理系進路選択支援プログラム、実施期間：2018年～2023年度）の後継事業）、その他、本学が実施する次世代人材育成事業とも連携できる学内体制及び長期的視野に立った人材育成プログラムを整備しています。さらに、沖縄県教育委員会や地元企業等も参画する地域コンソーシアム「次世代人材育成連絡協議会」を設置し、地域のリソースを活用した次世代人材育成体制及び支援環境を構築しています（図2）。

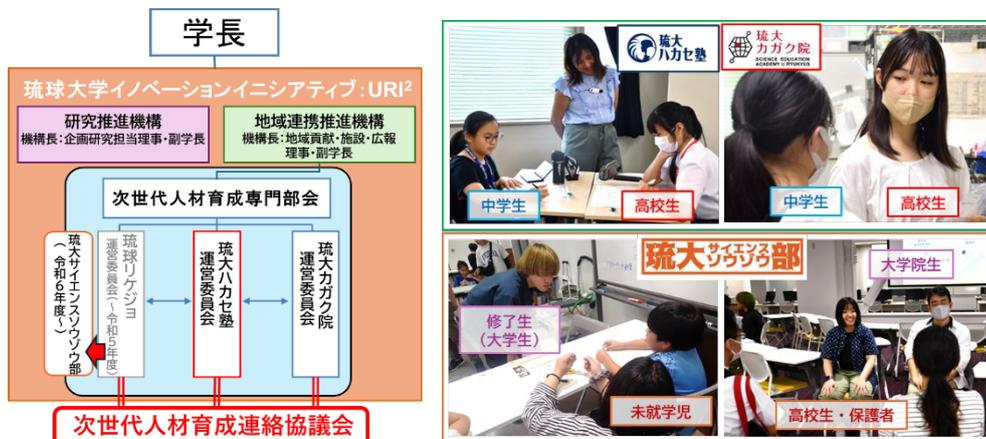


図2. 本学の次世代人材育成事業の実施体制（左）と琉大ハカセ塾と他事業との連携プログラムにて、参加者が様々な学齢間で交流する様子

## <次年度の受講生募集について>

以下の日程で、琉大 SEARCH プログラム（琉大ハカセ塾・琉大カガク院※）の令和7年度の受講生を募集するとともに、募集説明会を開催します。

※令和7年度の募集から、「琉大ハカセ塾」（JST 事業名：ジュニアドクター育成塾、小中学生が対象）と「琉大カガク院」（JST 事業名：グローバルサイエンスキャンパス、高校生等が対象）を統合した「琉大 SEARCH プログラム（JST 事業名：次世代科学技術チャレンジプログラム、小中学生・高校生が対象）」として募集を開始します。事業の愛称である「琉大ハカセ塾（小中学生向け）」と「琉大カガク院（高校生向け）」の名は引き継ぎますが、教育プログラムの中では小中学生・高校生の学齢の垣根を超え、同一のカリキュラムを受講可能です。

### 1. 令和7年度募集概要

募集プログラム：第一段階教育プログラム

募集地域：全 国（県外・離島等，遠方からはオンラインでのプログラム参加も可能）

募集対象：小学校5年生～中学校3年生、

高校生（中等教育学校4～6年生・高等専門学校1～3年生等を含む）

募集人数：小学校5年生～中学校3年生 20～25人程度

高校生 15～20人程度

受講費用：無料

募集期間：4月4日（金）～5月11日（日）

申込方法：Web 申込（もしくは申込書類の郵送）

### 2. 令和7年度募集説明会

日 時：2025年4月26日（日）14時より

会 場：琉球大学 理学部本館 114 教室

（オンラインでも配信予定）

## <補 足>

以下の HP 等もご参照ください。

琉球大学次世代人材育成事業 HP：<https://jisedai.skr.u-ryukyu.ac.jp/>

琉大カガク院 HP：<https://jisedai.skr.u-ryukyu.ac.jp/kagaku>

琉大ハカセ塾 HP：<https://jisedai.skr.u-ryukyu.ac.jp/hakase/>

琉大サイエンスソウゾウ部 HP：<https://jisedai.skr.u-ryukyu.ac.jp/sozo/>

## 別紙

ジュニアドクター育成塾推進委員会

### ジュニアドクター育成塾

令和6年度中間評価に係る推進委員会所見について(通知)

標記の件について、ジュニアドクター育成塾推進委員会において審議した結果は、下記の通りです。

#### 記

機 関 名： 琉球大学

企 画 名： 美ら夢を描く次世代イノベーター育成プログラム「琉大ハカセ塾」

評 価： S(優れた取組状況であり、現行の努力を継続することによって更なる発展が期待される)

所 見：

教育理念、体制、関係人材等、全学体制で臨み、企業をはじめとする機関との連携体制も構築、活用されている点は評価できる。今後に向けて、統合型人材育成研究拠点「STEAM 教育研究センター(仮称)」の設立による効果について分析を進め、小中高一体型の長期育成プログラムである次世代科学技術チャレンジプログラムでの展開を期待する。

また、実際に高い成果の創出につながるよう、以下の諸点について、さらに検討を深めてください。

- 「琉大サイエンスソウゾウ部」を立ち上げ、再応募する児童・生徒を長期的にフォローする体制を構築し、小学1～4年生に広報することで、令和6年に過去最高となる122名の応募者を集め、プログラムの枠組みを超えて、幅広く展開出来ている点は高く評価できる。今後に向けて、突出した能力がある児童生徒を選抜する総合的判断の確立を期待する。
- シニアメンターと配属研究室の指導教員、学生メンターとの連携体制が整えられ、指導者間で、ポートフォリオを共有する等、全体のマネジメントがなされ、メンターの研修機会も多様である。ジュニアドクターやグローバルサイエンスキャン

パス(GSC)修了生がメンターとして参加しており、長期的な人材育成モデルとして、今後の展開を期待する。

- 第一段階は、理数分野に加え、芸術感性を含めた幅広い領域の講座が開講されている。また、講座はe-ラーニングシステムで配信されており、学習効果を高めるとともに、時間と場所に制限のある受講生に配慮が見られる。また、第一段階から「自己研究推進プラン」により、研究計画書の策定・改善を進め、第二段階へスムーズに接続できるよう考慮されている点は評価できる。
- 評価について、ポートフォリオ、ルーブリック、アンケート、研究計画書、受講生カルテ、研究記録ノート等、幅広い観点で、総括的評価と形成的評価のそれぞれを適切に活用し、GSCとの連携により、長期的な進捗の把握・評価ができるように、評価方法を揃える等、調整できている点も評価できる。
- 全学体制での展開に加えて、沖縄県教育委員会をはじめとして、地元ベンチャー企業や団体も参画し、コンソーシアム「次世代人材育成連絡協議会」を設置し、各機関の業務協力者をメンバーとして活動を行っている。加えて、GSCプログラムとの共同実施やSSH 高校生の研究発表会での交流、沖縄科学技術教育シンポジウム(OASES)での発表など、近い年齢の交流が地域ぐるみで進められている点も評価できる。
- 募集、選抜、プログラムの内容、体制、評価、検証、連携、成果の波及、追跡調査まで、取組全体として、モデルと事例を構築してきた。統合型人材育成研究拠点「STEAM 教育研究センター(仮称)」の設立による効果について分析を進めるとともに、沖縄の文化・芸術・伝統工芸のさらなる活用を含め、小中高一体型の長期育成プログラムである次世代科学技術チャレンジプログラムでの展開を期待する。